

Contents

Topics! 全日本大学対抗選手権大会のご案内

1. リオオリンピック結果報告
2. インカレに向けて・主将抱負
3. 第60回早慶定期戦結果
4. 早慶戦OBエキジビションに参加して
5. 早慶戦参加OBを囲み激励懇親会を開催
6. 国際大会代表選手コメント
7. 競技会成績
8. 夏合宿を振り返って
9. いわて国体参加者との懇親会を開催
10. 稲門体育会コンペ連覇&バーベル会結果
11. 故鈴木靖二先輩のシューズがマスターズデビュー



大学新記録となる173kgを成功させた生頼選手

Topics!

全日本大学対抗選手権大会のご案内

今年度のインカレ（第62回全日本大学対抗選手権大会・第17回全日本大学対抗女子選手権大会）が以下のとおり開催されます。ぜひご来場いただき、ご声援くださいますようお願い申し上げます。

記

期日：12月23日（金）～25日（日）

会場：埼玉県さいたま市記念総合体育館（埼玉県さいたま市桜区道場4-3-1）

JR京浜東北線「浦和駅」西口より「大久保浄水場」行き「桜区役所」下車徒歩1分

※出場選手および競技日程は当会Webサイトまたは会員向けメールをご確認ください。

リオオリンピック結果報告

現地時間8月9日に開催されたオリンピック女子63kg級に松本潮霞先輩（H26卒）が出場しました。結果はスナッチ90kg・ジャーク115kg（自己新記録）・トータル205kgで9位でした。松本先輩からひと言いただいたのでご紹介いたします。

応援ありがとうございました。
結果は9位と入賞に一步及びませんでした。
しかし、次に繋がる数字だと私は感じています。
あと4年頑張ります！
今後ともよろしく願いいたします！

松本潮霞（H26）



インカレに向けて・主将抱負

今年度のインカレに向けて、男子・女子主将から抱負をいただいておりますのでご紹介します。

早稲田にとって実りの多い大会となるよう男女揃っての活躍を期待したいと思います。

昨年のインカレでは、男子は団体4位という好成績を残すことができました。

今年はさらに上を目指すということで目標を立ててきましたが、主力であった4人が抜けたこともあり、団体3位を目指すチームとは決して言えない現状となっております。その中で、私たちが目指すべきことは、全員のインカレであることを意識することです。自分のためよりもチームのため、出場を逃した選手のため、全員が一丸となること、思いを乗せて1本1本あげることを大事にしていきます。

我个人としては、主将として、4年生として、お世話になった方々へ感謝の気持ちをもって試合に臨み、得点を重ね、最低限の仕事ではなく、最高の結果を求めています。

残りの時間を大切に、1本にかける思いを強く持ち、チームワセダとして、精一杯戦ってまいります。OB・OGの皆様、いつもたくさんのご支援やご声援をいただき、ありがとうございます。シーズン最後の試合を部員一同期待に応えられるよう臨みますので、より一層大きなご声援をよろしくお願いいたします。

男子主将 武田健（スポーツ科学部4年）

大学4年間はとても短く、最後のインカレとなりました。今までのインカレとは違い、女子のキャプテンとしてチームを引っ張っていかなければなりません。昨年のインカレから女子キャプテンとなり、この1年間、インカレに向けて取り組んできました。

私は大学からウエイトリフティングを始めたので、後輩たちのほうが競技歴もあり、キャプテンとしてチームを引っ張っていくことができたかわかりませんが、何事にも一生懸命に頑張ってきました。まずは、自分自身が強くなることをとにかく頑張ってきました。また、周りを見ることや、声出しなど、なるべく後輩とのコミュニケーションをとることを心がけました。

今回のインカレでは、自分自身がメンバーになれるかはまだわかりませんが、最後まで諦めずメンバーに入れるように頑張ること、なれなくても、チームを引っ張り、試合では全力でサポートしていきたいと思っています。

また、チーム全体をみて、早稲田が上位にいけるように、残りの1ヶ月、チームとしてまとまっていけるようにしたいと思います。そのためにももっと意識を高く持って練習に取り組まなければならないと思います。1つでも上の順位になり、点数を取るために、相手の記録も意識しながら練習することも必要だと思います。インカレは団体戦で成功率が鍵となると思うので、練習でも失敗の少ない試技を、特にこの1ヶ月はしなければなりません。練習で悪かったところは本番の失敗にも繋がります。練習は練習ですが、1本1本を大事に練習し、本番でも全員の成功率が高い、いい試合にしたいと思います。

一年間チームとしてやってきたことが全て出る試合になるとと思います。今までの練習が無駄にならないように、全員が1つの目標に向かって悔いのないように、選手もサポート組も頑張っていきたいと思っています。応援よろしくお願いいたします。

女子主将 野本なつみ（スポーツ科学部4年）

第60回早慶定期戦結果

10月9日、日吉記念館において、第60回早慶ウエイトリフティング定期戦が開催されました。

千葉健介選手（社学3年）が69kg級でスナッチ116kgとトータル259kgの大会新記録をマークし大会を盛り上げました。団体戦は早稲田118点：慶應92点で早稲田大学が勝利し、連勝記録を53に伸ばしました。

試合後には懇親会が開かれ、両校の健闘を称え親睦を深めました。

第60回早慶ウエイトリフティング定期戦								
	56	62	69	77	85	94	+94	合計
W	16	21	15	15	15	15	21	118
K	14	9	15	15	15	15	9	92

60回という節目に大会記録を出すことができ嬉しく思います。私にとっての早慶戦は「長い連勝の記録を守るため、絶対に勝たなければいけない」という試合です。近年の慶應は、高校時代の競技経験者が極めて少ない状況であり、早稲田が圧倒的勝利を収めなければいけないというプレッシャーを感じていました。今回の結果は早稲田118対慶應92で、以前の早慶戦よりも点差が縮まっており、圧倒的勝利とは言えない結果でした。早慶戦は全階級2名ずつで戦うため、インカレなどの団体戦よりも部の総合力が必要となってきます。慶應は男子部員の数だけでいえば早稲田の2倍以上であり、近年の慶應の成長は、部内での競争が活発であるからだと推測されます。

一方、早稲田は部内に同階級で同じぐらいの実力をもつ選手が少ない場合が多いため、常に外のライバルを意識し、緊張感をもたなければいけないと感じました。

また、人数の差から点が詰められてしまうのは仕方のない部分もあります。しかし、代わりにより高い記録で優勝して、大会記録を塗り替え、早慶戦の歴史を更新し続けることこそが、早稲田の力の証明になるのではないのでしょうか。

千葉健介（社会科学部3年）



（大会新記録の116kgをスナッチする千葉選手）

定期戦60回を記念してOBIエキジビションが行われました。早稲田からは中田正剛先輩（S43卒）、谷川吉史先輩（S45卒）、徳橋政實先輩（S46卒）が出演し、会場を沸かせました。



〈中田先輩〉



〈谷川先輩〉



〈徳橋先輩〉

早慶戦OBエキジビジョンに参加して

第60回早慶ウエイトリフティング定期戦に参加しました。

結果は早稲田の勝利で、観戦していた時は圧倒的と思いましたが、発表された点差は意外と小差でした。

前半の部と後半の部の間に両校OBによるエキジビジョンがあり、北海道から駆け付けられた中田先輩、新潟から参加の徳橋さんとともに、山内先輩の代役として小生の三人が早稲田側から参加しました。

実力者・徳橋さんはきれいなリフティングに充分なる演技力？！（深くしゃがんで、少しぐらつかせて）を加えた余裕の試技。75歳のレジェンド・中田先輩は歩くときまだ少し足を引きずっておられましたが、OBエキジビジョンの監督・山内先輩のコーチを受け、見事な？スプリットスタイルのクリーンと、プレスのような差しで成功されてました。お二人のおかげで私も、スナッチはダメでしたがジャークで今まで取れなかったクリーンが取れて（65kg）、一筋の光を見ました。

17時からの両校懇親会では、現役部員との会話も楽しめ、少しエネルギーを吸収できたような気がします。

それと、アップ場で、すぐ近くで現役の選手が130kg～150kgのバーベルを落とした時のあの迫力のある音！が何とも言えません。少し耳の遠い私には心地よい響きでした。機会があれば、現役部員との合同練習に参加させてもらい、また味わいます。

5年後、早稲田大学での第65回早慶戦ではOBエキジビジョンの参加者を増やすそうですから、皆さんも是非20kgのシャフトを重く感じるところからリフティングを再開して参加してみませんか！！ 谷川吉史（S45卒）

早慶戦参加OBを囲み激励懇親会を開催

早慶戦前日の10月8日、川崎市武蔵小杉にある海鮮居酒屋で、OBエキジビジョン参加の中田正剛先輩、谷川吉史先輩、徳橋政實先輩を囲んで激励の懇親会を開催しました。

3選手と同年代のOBを中心に16名が参集し志田会長の発声による乾杯でスタート。前半はテーブルごとに近況報告や懐旧談に花が咲きました。後半は、まず野中幹事長の提案で山内英雄先輩を早稲田OBの一日監督に任命。そして、山内先輩から選手を代表して谷川吉史先輩に臍脂にWASEDAの文字が入った試合用ユニフォームが手渡されました。続いて山内先輩、谷川先輩、徳橋先輩、中田先輩の順で日ごろのトレーニングや早慶戦の思い出、翌日の競技に向けた意気込みなどスピーチしていただき、盛り上がりました。最後は稲門体育会代表委員の藤田先輩の挨拶と出席者全員で校歌斉唱、3選手へのエールでお開きとなりました。

ご出席いただいた皆さま、ありがとうございました。

【懇親会出席者】※敬称略

山内英雄（S42） 中田正剛（S43） 内村正月（S44） 藤田和雄（S44） 谷川吉史（S45） 岡田正三（S45）
上野稔（S45） 森武彦（S45） 高橋明（S46） 徳橋政實（S46） 秋葉裕一（S46） 水谷吉朗（S48）
正木隆至（S48） 志田典明（S51） 野中弘一（H01） 岩崎久和（H02）



国際大会代表選手コメント

11月11日～15日、東京の大田区総合体育館でアジアユース・ジュニア選手権大会が開催されました。早稲田大学からは安嶋千晶選手と柏木麻希選手が出場し、安嶋選手は5位、柏木選手は3位となりました。試合前にそれぞれコメントをいただいていたのでご紹介します。

今回の大会は、ついに最後のジュニア戦です。高校からこの競技を始め5年目になりましたが、この試合が終わればシニアの世界で闘っていかなければなりません。

だからこそ、今回の大会では5年間教わってきた全てを出し切り、最高の笑顔でジュニア時代を締めくりたいです。そして、この5年間を支えてくれた家族や多くの方々も応援に来てくれるので、その方々への感謝の気持ちを込めてバーベルを握り、感動とメダルを届けることで恩返しをしたいです。

また、私の夢は東京オリンピックです。今回、国際大会が日本で開催されるということで、オリンピックの予行演習だと思い、日本代表としての自信とプライドを持ち、強い外国選手に負けないよう、闘ってきたいと思います。

目指すは金メダルですが、とにかく6本取ることにこだわり、結果が自然と付いてくるようなパーフェクトな試合をしてきます。応援よろしくをお願いします。

安嶋千晶（スポーツ科学部2年）

私にとってジュニアの区分での国際大会は、このアジアジュニアが最後になります。その大会を日本で行えることをとても嬉しく思います。目標はメダルを取ることです。高校1年のときから出場し続けてきたアジアユース・ジュニア大会ですが、最後の最後に笑顔でジュニアを終われるよう頑張りたいです。そして、来年からシニアの中で東京オリンピックに向けて激しい戦いになることが予想されますが、その中で堂々と戦っていけるよう自信をつけられる試合内容にしたいです。

会場設営や運営にたくさんの方が関わっていただいている、私たちが良い環境で戦わせていただけることに感謝して、全力で6本に取り組みで行きます。時差もなく美味しいご飯が食べられて安全な水が飲めて素敵な試合会場で挙げることができるのは支えてくださる全ての方々のおかげです。自分のために、そして、応援してくれるみんなのために順位は1つでも上に記録は1キロでも重い重量を挙げられるよう頑張ります。

柏木麻希（スポーツ科学部2年）

11月13日～17日、メキシコで開催された世界大学選手権大会に早稲田大学から生頼永人選手が出場し、4位となりました。渡航前に生頼選手から意気込みをいただいていたのでご紹介します。

今回の世界大学の抱負としては、このような数少ない国際大会に参加させてもらっていることに感謝の気持ちをもって試合に臨みたいと思います。そして、今大会の目標として、できる限り成功率を高め、表彰台を狙う試合にします。そのためには、減量に関する環境が不安定な海外でも、ただ体重を減らすだけでなく、しっかりと体力を保ったまま減量するように最善の努力をします。今までの国際大会では、思うような減量ができず足を攣ってしまったり、C&Jの3本目までちゃんと試技ができなかったこともあったので、今回はそのようなことがないように、事前の準備から調整までをしっかりとって試合に臨みたいと思います。

帰国後も今回の大会で得たものを糧として、東京オリンピックに向けて更なる努力をしていきます。そして、来年や再来年に開催される東京オリンピックの枠取りの大会、世界選手権への出場も視野に入れて頑張っていきたいです。

生頼永人（スポーツ科学部3年）

競技会成績

第44回東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会

期間：7月2日～7月3日

階級	選手名	学部 学年	体重	BEST				TOTAL	
				S	順位	J	順位	記録	順位
M56kg級	吉田旭	社1	55.35	81	9	100	9	181	9
M62kg級	森川芳樹	ス3	61.5	100	4	110	8	210	5
M69kg級	生頼永人	ス3	68.9	131	2	169	1	300	1
	千葉健介	社3	64.96	118	5	150	5	268	5
M77kg級	永迫竜矢	ス2	76.36	115	6	151	7	266	6
M85kg級	藤本雅大	ス4	83.72	116	8	130	10	246	9
M105kg級	武田健	ス4	104.76	121	10	170	2	291	2
	池田祐介	社2	102.9	128	4	150	9	278	8

第40回東日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会

期間:9月9日～11日

場所:日大生物資源科学部体育館

階級	選手名	学部 学年	体重	BEST				TOTAL	
				S	順位	J	順位	記録	順位
M77kg級	生頼永人	ス3	71.04	126	1	170 大会新記録	1	296	1
W58kg級	内門沙綾	ス3	57.74	73	1	98	1	171	1
W63kg級	野本なつみ	ス4	62.62	69	1	85	1	154	1
W+75kg級	田中季恵	ス2	78.66	71	2	90	2	161	2

第13回東日本学生ウエイトリフティング新人選手権大会

期間:9月9日～11日

場所:日大生物資源科学部体育館

階級	選手名	学部 学年	体重	BEST				TOTAL	
				S	順位	J	順位	記録	順位
M105kg級	池田祐介	社2	103.6	130	1	160	2	290	1
W48kg級	新川百音	ス1	47.84	63 大会新記録	1	79 大会新記録	1	142 大会新記録	1

第71回国民体育大会

期間:10月1日～5日

場所:江刺中央体育館

階級	選手名	学部 学年	体重	BEST				TOTAL	
				S	順位	J	順位	記録	順位
M69kg級	生頼永人	ス3	68.90	129	4	171	1	300	3
W-53kg級	安嶋千晶	ス2	50.72	68	7	92	3	160	4
	新川百音	ス1	47.94	65	11	83	11	148	10
W-63kg級	内門沙綾	ス3	57.80	74	13	98	8	172	10

第61回全日本学生ウエイトリフティング新人選手権大会

期間:10月21日～10月23日

場所:上尾市スポーツ総合センター

階級	選手名	学部 学年	体重	BEST				TOTAL	
				S	順位	J	順位	記録	順位
M85kg級	神田悠斗	社2	84.44	105	11	135	10	243	10
M105kg級	池田祐介	社2	103.88	135	1	161	3	296	1
W48kg級	新川百音	ス1	47.90	63	1	82	1	145	1
W+75kg級	田中季恵	ス2	77.34	80	2	99	2	179	2

国民体育大会は今年から女子の競技も始まり、OBに加えてOGの先輩も頑張りました。

第71回国民体育大会

期間:10月1日～5日

場所:江刺中央体育館

階級	選手名	年次	体重	BEST				TOTAL	
				S	順位	J	順位	記録	順位
M62kg級	黒江雄二	H.22卒	61.80	105	9	133	8	238	8
M69kg級	大塚一樹	H.24卒	67.80	126	5	152	7	278	6
M77kg級	三浦宏也	H.25卒	76.00	114	19	158	7	272	13
M85kg級	武井誠一郎	H.24卒	79.70	135	5	170	4	305	3
M105kg級	菅野真央	H.28卒	104.22	140	10	171	9	311	9
W-63kg級	見附絵梨	H.27卒	62.06	89	2	106	3	195	3
	高岸冴佳	H.27卒	62.86	84	5	98	10	182	6

夏合宿を振り返って

4年生の私にとって、今年の夏合宿が最後の合宿であり、その合宿を全員が無事に終わることができ良かったと感じています。練習中は、普段の大学での練習以上に、全員で練習を盛り上げようという雰囲気を感じました。そのおかげで普段よりも気合いが入って思い重量に挑戦する人も多く、良い練習ができたと思います。練習以外の時間では、観光名所である三保の松原を観光したり、花火をしたりと今回の合宿ならではの時間の過ごし方もでき、有意義な時間を過ごせたと思います。

また、今回合宿をするにあたり、多くの方々にご協力をいただきました。特に溝口敏男様をはじめ清水ナショナルトレーニングセンターの皆様には、練習、食事をはじめ、その他数多くのサポートをしていただき、おかげさまで今回の合宿を成功させることができました。厚く感謝申し上げます。また、十文字女子大学の皆様にも栄養に関する講義や、食事調査などでサポートしていただきました。本当にありがとうございました。

藤本雅大（スポーツ科学部4年）



いわて国体参加者との懇親会を開催

10月1日～5日、岩手県奥州市で国体のウエイトリフティング競技が開催されました。

今大会は2020年オリンピック対策として女子53kg以下級と63kg以下級が追加となり、OB/OG・現役部員計11名が各都道府県の代表選手として出場しました。M69kg級・生頼永人選手、M85kg級・武井誠一郎選手、W-63kg級・見附絵莉選手の各級3位をはじめ、7名が8位以上入賞を果たすなど早稲田勢の活躍が目立ちました。

また、大会期間中の10月2日、水沢駅前の居酒屋で早稲田OB/OG懇親会を開催しました。創部60周年記念事業への参加呼びかけをかねて志田会長・野中幹事長も現地で合流し、選手・役員として国体に参加したメンバーとともに交流を深めました。

現役当時の思い出話や互いの近況、競技に取り組む環境や高校生の指導に関する相談・情報交換など話は尽きることなく、楽しくまた有意義な時間を共有することができました。

盛会は開催地岩手県出身の城内史子先輩による中締めで再会を約してお開きとなりました。

引き続き来年以降も毎年国体の開催地で交流の機会がもたれるよう期待しています。

ご出席いただいた皆さま、ありがとうございました。

【懇親会出席者】※敬称略

岡田純一（H02） 升田友也（H09）

吉岡史生（H13） 城内史子（H19）

黒江雄治（H22） 大西はるか（H23）

大塚一樹（H24） 三浦宏也（H25）

小栗統司（H26） 菅野真央（H28）

志田典明（S51） 野中弘一（H01）



稲門体育会コンペ連覇&バーベル会結果

10月12日、千葉県野田市の千葉カントリークラブ梅郷コースにおいて第7回稲門体育会ゴルフコンペが開催されました。

本会からは田口薫先輩（S42卒）、藤田和雄先輩（S44卒）、岡田文男先輩（S49卒）、野中の4名が参加。32の体育各部稲門会と競技スポーツセンター等から総勢77名（男性73名、女性4名）が参加し、ONTコースとINコースに分かれて朝8時にスタート。昨年とは打って変わって抜けるような青空のもと他部の同期や先輩後輩と談笑し励ましあいながら日本オープン開催の名門コース18ホールをノータッチルールで腕を競いました。

プレー終了後に表彰式・懇親会が行われ、各賞発表のクライマックス、コンペ優勝者の発表で昨年と同じく「ウエイトリフティング部」のコール。田口薫先輩の名前が呼ばれ、前回（岡田文男先輩が優勝）に続き我が部がV2を達成しました。

また、これより二週間前の9月28日、千葉県市原市のニュー南総ゴルフ倶楽部において第27回バーベル会（早慶重量挙OB親睦ゴルフ会）が開催されました。

慶應重量挙三田会9名、本会10名、計19名がエントリーし、両校グロス上位5名の合計による団体戦、新ペリア方式による個人戦とで争われました。

今回、団体戦は早稲田が勝利し、通算成績は早稲田15勝、慶應12勝となりました。個人戦はこちらも田口薫先輩が優勝に輝きました。

なお、バーベル会・探球会では新規メンバーを募集していません。腕に自信のある方、ブランクを経て再開された方、まだ始めたばかりの方も、ぜひご参加ください。

野中弘一（H01）



故鈴木靖二先輩のシューズがマスターズデビュー

故鈴木靖二先輩（前会長・S43卒）の葬儀の際、式場前に展示された遺品の中に真新しいリフティングシューズが並べられていたのを憶えていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。一周忌に当たる10月30日、調布市で開催された第14回東京都マスターズウエイトリフティング選手権大会において、その鈴木靖二先輩のシューズが試合に登場しました。

このシューズを履いて試合に臨んだのは、野口清志先輩（S49卒）。故人と当会だけでなく地域稲門会でも親交のあった岡田文男先輩（S49卒）がご家族から一時お預かりし、この日初めて故人に替わって野口先輩とプラットフォームに上がりました。

野口先輩は怪我の回復が半ばで万全ではありませんでしたが6回の試技をすべて成功させてM65-62kg級で優勝。

当日、選手・役員として参加したOB/OG一同、故人を思い、感謝の気持ちを新たにしました。

